

『赦されたのに赦さない人がいます』 マタイの福音書18章21～35 2015.11.29(岸義紘師説教より)

『私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』 マタイの福音書18:33

◆どうしても赦せない人…恨み、憎み、腹立たしい人がいる時、どうすれば良いのか。ペテロが「赦し」について尋ねた時、イエス様は「7を70倍するまで(永遠に)赦せ」と大原則を告げた。それは、1万タラント(六千億円)の借金を全て免除された人が、心からの感謝に溢れ、憐れみ深い人になるのと同じだと！この話には、現実にはあり得ないポイントが3つある。◆第一に、六千億円(1万タラント)もの借金をする人も、貸す人も現実にはいない！このあり得ない額の借金は、聖く正しい神の御前に犯した、私たちの罪過ちの大きさを表している。その罪深さは、あり得ないほどだと！◆第二にあり得ないのは、この憐れな借金男が何度もひれ伏し願った時、主人が『かわいそうに思い(27節)』全額赦して釈放したこと！この『かわいそうに』のことばの原意は『はらわたがちぎれる思い！』。創り主であり、愛なる神は、悪魔に支配され、罪の奴隷となり、救いようのない私たちを見て憐れに思い、心深く突き動かされた！そして身代りによる完全な赦しを用意し、永遠の滅びを免除する「救いの道」を開かれた。あり得ない恵み深さ！◆しかし最もあり得ないのは、憐れみゆえ、神の愛のゆえに借金を全額免除された男が、わずかな借りのある者をつまえて牢屋にぶちこんだこと！情け容赦のない、鬼のような、悪魔のような男とは、実は私たちのこと！私たちの罪・過ち・汚れの全てを身代りに背負い、身代りに処罰を受けて下さったイエス様は言われた…『私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』と。『幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は(詩篇 32:1)』。誰かの罪過ちを全部、完全に赦せと言われても、私たちには絶対に無理！しかしイエス様に助けられ、その愛の力をいただき、神のあり得ないほどの憐れみを知り、心からひれ伏して悔い改めた者にはできる！これからも「赦せない！恨んでやる！」と怒りや憎しみを爆発させることがあるかも知れない。しかしそのたびに、神の偉大な恵みと底なしの愛と憐れみを思い出し、悔い改めて、罪の呪いから解放され続ける者でありたい！